



教育者の再確認

元県立猪苗代養護学校長

関川正道

特殊教育関係に勤務すること
で、今までの教育内容と異なる
場面に直面することになり、あ
る種の緊張を感じていた時に福
井達雨氏の「僕アホやない人間
だ」に巡り会いました。

彼は、世間から冷たい目で見
られたり、隔離されている、重い
知恵遅れの子供たち（自分で食
事・排泄・着脱等が出来ない）こ
れが出来るようになることが子
供たちの自立の施設「止揚学
園」を設立しました。その施設
で試行錯誤しながら、時には職
員と共に徹夜をして弱い生命を
病から守り、日常生活において
は厳しさと愛情を交えての様々
な訓練や躰を実践し、子供たち
を自立させていく内容の本です。

文中で、「可能性のない人間な
っているのでしょうか。この子
供たちは人間なんです。そして
教育とは、どんな子供にも可能
性を信じ努力することなんです
。その可能性を放棄してしま
ったら、重い知恵遅れの子供の
指導というものはなくなってい
まうのです。」

「教育というものは、どんな時
でも可能性を信じて行うもの
で、駄目と思つて教育を捨てて
しまったら、この子供には人間
回復なんて生まれえない。何もで

きない子供であるからこそ、可
能性を信じてやるのです。」

「教育というものは、人間を軽
蔑しないことだし、駄目な子
こそ、なお真剣に人格と人格とを
ぶつかっていくのです。本当の
教育者とはそんなものではない
でしょうか。」

と、実践を通して述べる言葉は、
私の緊張感を解消させただけ
なく感動さえ与えてくれました
。また、児童生徒に對する対
応の在り方についての礎ともな
りました。

対象によって、教育内容・指導
法等の差はあれ、人間教育に徹
することが教育者の理念と実践
であると再確認させられました。
価値観のとらえ方はそれぞれ
違いますが、時代の潮流と共に
変化を余儀なくされている教育
の中で、深く考えさせられた良
書でした。

本の名称…僕アホやない人間だ

著者名…福井達雨

発行所…柏樹社

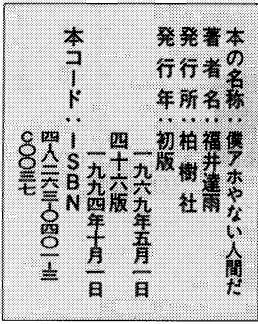
発行年…初版
一九六九年五月一日

四十六版
一九九四年十月一日

本コード…ISBN
四八二六三〇四〇一

四八二六三〇四〇一

CODE



一冊の本

私の重要参考文献

県教育庁スポーツ健康課指導主事兼
学校体育係長

吉田政勝



学生時代に本気で取り組んだ
ものひとつに、長距離走をい
かに速く効率よく走るにはどう
すればよいか、ということがあ
った。具体的には、自分や仲間
を実験台にして運動生理学面か
ら主に呼吸循環器系の実験を行
いそのデータを分析し、それを
毎日のトレーニングで実践する
ということである。研究を進め
るに当たって、先行研究論文や
専門書に接する機会が多かつた
わけであるが、そのような中、大
学生生活も終わりに近づいた頃
に出会ったのがこの本であった。

猪飼氏は、生理学の世界的権
威であり多くの研究実績を残さ
れている。学生の私にとって、
研究者といえ、その道一筋と
いう感が強かつたのであるが、
この本を読んでも初めて他の
分野においても多才であり、人
間としての幅の広さや生き方の
すばらしさを感じることがで
き、改めて氏の偉大さを知ること
ができたのである。

卒業の際、住んでいたアパー
トには先輩が住むことになり、
大部分の物は部屋に置いたまま
であったが、持ち帰った数冊の
本の中でも最も大切な一冊であ
る。その後も折にふれ目を通し

ているが、いつでもその理論の
確かさとともに新鮮さを感じる
のである。内容的には「心」「信
」「身」の三部構成であるが、教
育に関するものも多く、心の教
育などの現代の課題に對しても
心理学面からのアプローチはも
ちろんのこと、生理学面から子
供を理解することの必要性を強
調しているなど、その考え方の
基本は今でも十分通用する内容
である。

日々の生活の中で自分の考え
をまとめなければならぬ時、
物事を多方面から見つめ、判断
できるようにと心掛けているが
なかなか思うようにいかないで
いる。この本が教えてくれた、
幅の広い視野の中で物事の本筋
を鋭くつき、考えをずばりと表
現できるようにするため、これ
からも座右の書として大切にし
ていこうと思う。

本の名称…猪飼道夫隨筆集

著者名…猪飼道夫

発行所…朝ベイスポール

発行年…一九七三年三月三十日

マガジン社

発行年…一九七三年三月三十日

